

### 「自家製」の充足感を

デイセンター「こだま」の活動のひとつに「クッキング」があります。夏は流しソーメン、クリスマスはケーキ作りと、季節や行事に応じてクッキングの内容を考えています。毎年7月にはカレーライスを作るのが恒例になっています。皆さんカレーライスは大好きですが、このカレーライスには「デイセンター「こだま」の畑で採れたジャガイモを使っています。4月に畑を耕して種芋を植え、水やりや草取り、芽欠きなど、汗を流しながら育てたジャガイモが入ったカレーライスは格別の味です。

使用する食材を自分たちで育てると言うやりがい、昼食を自分たちで準備し自分たちで作った料理を自分たちで食べるという楽しみ。このような日々の活動を通して充足感を持っていただけるよう、これからも支援していきたいと思えます。



デイセンター「こだま」  
支援員 犬飼 淳史

### 旅行で生活の活力を！

6月30日から7月1日の2日間、利用者26名、職員8名で、山口県のサファリパークや海響館へ旅行に行きました。旅行は、皆の親睦を深めることを目的として毎年実施しています。

Aさんは、旅行に向けてお小遣いを貯めることを計画し、毎月のお小遣いから貯めた三千五百円を持って旅行に参加しました。キーホルダーや友達へのお土産等を買って、とても満足そうでした。計画通りに実行できたという達成感を感じておられました。

また、3月に入居されたBさんは、同じホームのCさんに誘われたことや、話ができる職員が増えたことで旅行に参加することを決め、「Cさんと仲良くなれた。少し話せる人も出来て、不安だったけど行って良かった」と言われました。

旅行を目標に仕事を頑張った利用者も多く、高齢の利用者も、皆で遠出することが生活の励みになっていると感じました。

来年も旅行を計画し、旅行の楽しみを普段の生活の活力に繋げていきたいと思えます。



西の池学園グループホーム  
支援員 芝田 治子

### Hさんの第一歩

この度、竹原市にあるホテル大広苑さんのご厚意により、利用者さんの書道作品をロビーに飾らせて頂けることになりました。

その展示に人一倍積極的に取り組んだのがHさん。今まで「わしは、いいよ、いいよ。」と遠慮がちで、一人で過ごすことを好まれる方でした。そんなHさんでしたが書道の活動に取り組みされて以後、様々な活動にも積極的に参加され、自分のやりたい事に對し自主的にチャレンジされるようになりました。

先日「一緒に大広苑へ飾り付けに行きませんか？」と声を掛けると、「よっしゃー！」と張り切った笑顔を見せ、誰よりも先に作品を持って颯爽と歩く姿をとても頼もしく感じ、帰り際に「また来よう！」と言ったHさんの言葉を何より嬉しく思いました。

書道の活動では、利用者さん自らの個性を發揮して一つの作品が仕上がります。その時間は、真剣な眼差しや楽しそうな笑顔をされ、とても豊かな時間に見えます。私はそうした活動が生きる糧となり、心も豊かにしてくれると信じています。

このような機会を設けて下さった大広苑の方々にお礼を申し上げます。

ありがとうございます。皆さまもお近くにお越しの際には、ぜひ、素敵な作品たちに出会ってください。



多機能型事業所あさひ  
支援員 原 綾

## あさひグループホーム

### 猛暑に負けず

ニュースで「記録的猛暑」といわれるほど、とても暑い夏でした。そんな中、あおぞら工場の皆さんは、頑張って作業に取り組みました。

皆さんの作業場は、暑い時は30度を超えるほどの厳しい環境になります。そんな中でも意欲的に作業に取り組んでおられるのは職員としてとてもうれしい光景ですが、やはり体調面が心配になります。

20分に一回休憩時間をとり、こまめな水分補給を心がけています。扇風機やスポットクーラーの前にみんなで座って休憩してはまた、作業に集中できるようにしています。職員も「体調の悪い方はいませんか?」「この作業がおわったら飲み物を飲みましょう!」と、何度も声をかけています。

それでも、暑くなりすぎて作業が難しい時は、涼しい部屋で違う作業をしています。こういう時は新しい作業にチャレンジできるチャンスなので、実は貴重な時間だったりのります。

このような工夫のおかげで、難しいと思われていた作業の目標製造数も達成できて、職員も驚いています。また熱中症などの不調の訴えもなく、元気に今年の夏を乗り越えることができました。

やる気あふれる利用者みなさんが、安全に、そして元気に仕事ができるように、できるかぎりのバックアップをしていきたいと思っています。

あおぞら工場

支援員 神野 健人



### 災害復旧ボランティアに参加しました

甚大な被害をもたらした7月の豪雨災害。

西の池学園では建物への影響はありませんでしたが、裏山の土砂崩れによる被害の復旧作業に追われました。

まだ復旧作業中であった7月27日は、地域の皆様に楽しみにしていただいている「西の池学園ふれあいまつり」開催の予定でしたが、やむなく中止にすることをしました。

その7月27日、いつもお世話になっている地域の方へ少しでも力になりたいという思いから、東広島市社会福祉協議会を通じて災害復旧ボランティアに参加しました。

法人職員23名が3グループに分かれ、個人宅や旅館に赴きました。私達のグループは旅館の敷地に入った土砂を、土のうに詰めて運び出す作業を行いました。土砂は連日の日照りで固まっており、地面から剥がすのに時間が掛かってしまい、とても大変でした。

私たちが出来たことは復旧作業のほんの一部分であり、被害の大きさと復旧への道程の長いことを改めて痛感しました。

私達は地域の手助けになればとの思いで参加しましたが、作業中には旅館の方が私達の体調を気遣って下さったり休憩中に差し入れを下さったりと、逆に地域の方の暖かい心遣いに励まされた思いがしました。

この度は職場からの参加でしたが、個人としてボランティア活動に参加しようと強く心に思いました。被災された方々が一日も早く普段の生活に戻れますように、お祈りいたします。

西の池学園

支援員 吉貞 友紀乃



ボランティア活動を終えて

※誌面の写真、名前については、ご本人の同意を得て掲載しています。